

シリーズ「グローバル・ジャスティス」第18回

西半球における麻薬テロリズム—恐怖の迷路に入り込んだメキシコ—

マリオ・ヌニェス・マリエル(ニュージャージー州立ラトガース大学トランスナショナルメキシカンスタディーズ研究所長)

---

ラス・アメリカス (=米州) —北米、中米、南米、カリブ海域—は、麻薬テロリズムの結果として、そしてグローバル資本主義の危機の表れとして、西半球全域を巻き込んだ非対称戦争に巻き込まれている。

米国から密輸を通じて武器の大半がメキシコに入る。そのうえ、国際的資金洗浄のメカニズムのもとで、カルテルが利用する資金も入ってくる。その資金とは、米国に輸出され、カルテルに決定的な戦略的優位を与える、麻薬の対価によるものである。あまり注目されてはいないが、2009—2011年の間に米国は90万人近くを強制送還し、そのうちの大部分はメキシコ人と中米諸国出身者だった。強制送還された者は国境に無一文で放り出され、カルテルのために働く「兵士」になる危険に曝されていた。メキシコ社会には国家を防衛する責任がある。組織犯罪の支配下にある社会はそのあらゆる意義を失ってしまうのであるから。

西半球全域で立てるべき計画はますますはっきりしてきている。それは、この地域の「怒れる民」と全世界の市民とが抱えている動機に一致している。すなわち、バブル景気に乗じた金融システムとホワイトカラーによる利益独占、米州でも全世界でも深まる一方の極端な格差、政治腐敗、麻薬権力が振るう暴力、水資源と環境破壊につながるエネルギー源の民営化、貧富の隔たり、環境問題の進行、原子力の非合理性、全ての民に対する教育機会の欠如、失業問題といまやかたてなく不確かとなった将来展望、これらすべてに対する強い動機である。これに対処する有効な考え方は、やはりこれからも、リーダーをもたないネットワーク網のネットワーク “la red de redes sin liderazgos” と世界大の自由な領土としてのサイバースペースの広範な利用にある。そして勿論、いずれの抗議運動からも何らかの要求——より踏み込んだ平等と富のより良い配分、金融システムにおける調整改革、環境の持続性と保護、暴力のエスカレートを抑制するための麻薬の合法化、より幅広い教育機会、増加すべき雇用機会、政治家の腐敗を制限する民主主義の深化、言論と表現の自由の保障と全世界の市民に対する人権の全面的尊重——が読み取れるのである。